

二本松税務署長賞

税金から考えること

二本松市立二本松第三中学校

三年 三 菅

唯

「これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、国民の税金によって無償で支給されています。」教科書の裏によくある文章。普通何かものを得るときは自分のお金を使う。でも、私を使う教科書はたくさんの方々の税金によって得ることができている。日本国民の税金、日本国民の想いによって、私は不自由なく勉強に励むことができているのだ。その他にも当たり前だと思っていたものも税金があつたからだ。つまり私たちの生活は税金の上に成り立っているといえるだろう。

しかし問題もあるようだ。それは、税金を納めない人がいること。国民の多くが税金の使われ方に対して無関心であること。このことについて私も一人の納税者として思うことがある。

国に税金を納めるということは、自分たちが生きるために貯金するということだ。これ

から高齢化が進む。介護や福祉の施設もお金が必要になる。このときあの貯金が活躍するのではないだろうか。今、納めなければ十分な介護を受けられない社会となっていく。つまり、国民の義務を果たさなければ権利を得られるわけがないということだ。

そして国には、国民の努力を無駄にしないでほしい。税金には国民の願いと希望が込められている。どのように使ったのか詳しく説明すれば国民も納得して税金を払うのではないだろうか。今、消費税が上がるといわれているが、日本が今どんな状態なのか、消費税を上げれば経済は復活するのかしっかりと説明してほしいと思った。

日本は民主主義国家である。私たちの代表者が政治をしているのだから、私たちが納得するような税金の使い道をして、それを説明する。これが基本だと思う。そして私たちも、もつと政治に関心を持つことで、税金について考え、大切さ、重要さを理解し、義務を果たす必要があると思った。

「税金」について考えてみると、皆、それぞれに様々な立場があり、その立場の義務があることが分かった。私たちは一人では何もできないし生きていけない。だから支え合い、助け合い、社会をつくっていく。私たちはその社会をより良いものに、だれもが安心して笑顔でいられるものにしていきたいと願う。そのために税金を中心にそれぞれの立場の人が協力し、しっかりと義務を果たすことが大切であると思う。

これからの社会を支えていく私たちが、まず税金の大切さを知ること。それが明るい未来づくりにつながると思う。

